Museum News

博物館ニュース

徳島県立博物館

No.110

図１　鳴門市瀬戸町堂浦のテグス行商船

図２　カンパ（瀬戸内海歴史民俗資料館蔵）

鳴門堂浦のテグス行商

図１は鳴門市瀬戸町堂浦（どうのうら）で撮影されたテグスなどの漁具を売り歩く行商用の船です。瀬戸内海沿岸地域から九州北部地域を漁具の行商でまわっていました。堂浦では全国に先駆けてテグスを漁に使い始め、西日本各地に出漁し、テグスの製造と使用の技術を普及させたとされます。

ところで、図1の船には長い竹棒が立てられ、その先に湾曲（わんきょく）した紐（ひも）状のものがぶら下がっているのを確認できます。これは図２のカンパと呼ばれるテグス行商の看板にあたるもので、針金の先にテグスの束を結び付けて商売の目印にしていました。

企画展「阿波漁民ものがたり―海を渡り歩いた漁師たちの5つの話―」では、堂浦のテグス行商について紹介します。

（民俗担当：磯本宏紀）

Culture Club

『光格上皇修学院御幸儀仗図』について
―主題と筆者をしらべたのはだれか―

大 橋 俊 雄

はじめに

当館の保管する『光格上皇修学院御幸儀仗図』は、文政７年（1824）９月に、光格上皇が京の修学院に御幸されたおりの行列を描いた３巻の巻物です（以下、『図巻』と呼びます。図１）。徳島藩主蜂須賀家の伝来品とされ、藩絵師の渡辺広輝（1778-1838）が制作したといわれています。

『図巻』には、箱書、標題、詞書、奥書といった絵巻物にそなわる文字情報がなく、いつ、だれが、なにを描いたのか直接しる手だてがありません。さきにのべた主題と筆者も、昭和46年（1971）に徳島大学教授の河野太郎氏（1907-2000）がしらべた結果です。

このコーナーでは、河野氏が主題と筆者を指摘したいきさつをたどります。氏は、主題や筆者についての考証を文章にまとめながら、それを公にしなかったようです。そのため時間の経過とともに、だれが最初に説きだしたのかわからなくなっていました。

1．図巻の概要

『図巻』の主役である光格上皇（1771-1840）は、在位中、すたれていた朝儀を再興したことでしられています。天明の大火で内裏がやけると、幕府に働きかけて復古様式で再建をはたしました。御幸の目的地は、17世紀に後水尾上皇が比叡山麓にいとなんだ修学院です。下御茶屋、中御茶屋、上御茶屋からなり、光格上皇が御幸されるにさきだち幕府の手で修復されました。

『図巻』はたて39.5センチ、よこは３巻あわせると34メートル弱あり、行列の人数は1,027名、見物人は49名です。上巻には見物人と武家、中巻には公卿と玉輿、下巻には殿上人が描かれています。本来の順序とことなり、玉輿の一行よりまえに武家、うしろに殿上人がきますが、２つの場面はあとで入れかえられたようです。絹地にあざやかな彩色で描かれ、余白には金泥がぬられ、金砂子がまかれています。装丁のおもな部分と二重箱はもとのままです。

かつて個人が所有し、昭和47年（1972）に徳島県の有形文化財（絵画）に指定されました。その後、持ち主の遺族から県に寄贈されました。

2．『弘文荘待賈古書目』の記載

近世以前の『図巻』の伝来は、蜂須賀家の蔵帳が未公開なこともありさだかでありません。

東京都文京区に、反町茂雄氏（1901-1991）という著名な古書籍商がいました。『図巻』は、昭和46年（1971）１月に刊行された反町氏の販

図１　『光格上皇修学院御幸儀仗図』中巻（部分）　徳島県立博物館蔵

売目録『弘文荘待賈古書目』第38号（以下、『古書目』と呼びます）にのせられ、はじめて世にあらわれました（図２）。

『古書目』の解説によると、『図巻』は主題がわからないため、『観楓御幸行列図巻』とかりに名づけられました。行列は天皇または上皇の御幸であり、紅葉にかかわる慶事とおもわれ、筆者は高貴をはばかって名をふせたらしく不明とあります。また蜂須賀家旧蔵とのべています。時代をすこしはやい寛政（1789-1801）ごろとみており、この年代のずれが、いつ、だれの御幸なのか比定をむずかしくしたようです。

『古書目』の記述は、近代における『図巻』の最初の観察記録といえます。文字が書かれていないため、反町氏は画面をたんねんに追いました。しかし主題と筆者はついにつかめませんでした。

図２　『弘文荘待賈古書目』第 38 号　徳島県立図書館蔵

３．河野氏の考証

『図巻』には、まえの持ち主からひきつがれた書類がのこります。それらを検討すると、弘文荘から売りだされたあと『図巻』がどうなったのかが推しはかれます。

『図巻』はまもなく徳島県鳴門市の個人が入手しました。そして昭和46年（1971）９月に、県の文化財専門委員であった河野氏が『調査書』を作成しました。そのコピーをみると、名称、所有者、由来、日付、調査者などの欄があり、今日いわれている主題と筆者が、氏によってすでに書きこまれています。

河野氏はおなじころ、『光格上皇修学院御幸儀仗図三巻について』（以下、『三巻』）と『光格上皇修学院御幸儀仗図三巻参考資料』（以下、『参考資料』）をまとめました（図３）。『三巻』では『調査書』の内容をくわしく説明しています。『参考資料』では『三巻』で引いた文献のコピーをあつめています。

『三巻』は手書き文のコピーです。題名はありますが名前や日付、奥付はありません。ほかの自筆原稿とくらべることで、はじめて河野氏が書いたと推定されます。名前がないのは、原本が指定にむけてつくられた内部資料であり、『調査書』に付されたためかと思われます。

翌47年（1972）２月には文化財専門委員会がひらかれました。この会では、『調査書』にもとづいて審議がおこなわれました。『三巻』と『参考資料』が配布されたかまではわかりません。３月には『図巻』が文化財に指定されました。

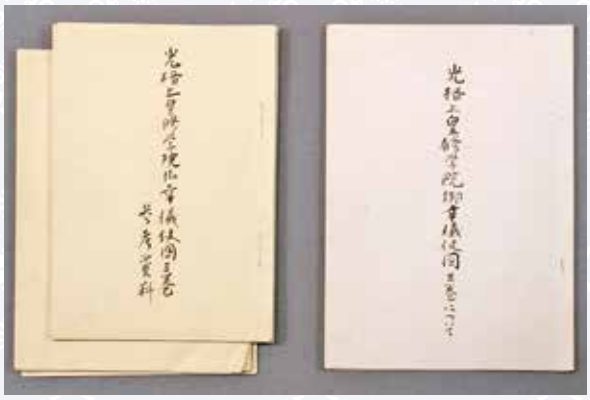

図３　『光格上皇修学院御幸儀仗図三巻について』（右）と『光格上皇修学院御幸儀仗図三巻参考資料』（左）

４．主題・筆者の根拠

『図巻』の主題と筆者のてがかりは、『三巻』によると広輝の弟子・守住貫魚（1809-1892）の伝記にあります。もと藩絵師だった貫魚は、明治時代に徳島から大阪に移りました。そして展覧会で賞をもらい、皇居の宮殿に絵筆をとり、帝室技芸員になりました。有名人だったので生前から伝記がひろまりました。

伝記によると、貫魚は文政７年（1824）に、師命により「光格天皇修学院ニ幸スル儀仗三巻」を補写したとあります。河野氏は、それが『観楓御幸行列図巻』であることに気づきました。光格上皇による修学院御幸の行列を、渡辺広輝が貫魚にてつだわせて描いたと結論づけました。名称には伝記の記事がいかされ、兵仗をあらわす「儀仗」の語がそのままのこされました。

御幸では鷹司家が供奉の中心でした。河野氏は、藩主家がこの家と親戚なので、記念に『図巻』をつくらせたとみています。こうした推測も、だれが最初にいいだしたのか問われないままいまに受けつがれてきました。

（美術工芸担当）

平成30年度第１回企画展

阿波漁民ものがたり

―海を渡り歩いた漁師たちの5つの話―

徳島県沿海地域には、かつて遠い地域まで進出して活躍してきた漁師たちがいました。こうした漁師たちは、さまざまな優れた漁法をもって全国各地の海をまたにかけ、生計をたててきました。漁師たちの移動は、ときには人の交流と技術や文化の伝播をもたらすことがありました。

展示では、海を渡り歩いた漁師たちの、５つのそれぞれの“ものがたり”を紹介します。

■会　　期　**2018年4月27日（金）～ 6月10日（日）**
■主　　催　徳島県立博物館
■開館時間　9：30 ～ 17：00
　　月曜日休館（4月30日は開館）
■会　　場　徳島県立博物館　企画展示室（1階）
■観 覧 料　一般 200円、高校・大学生 100円、小・中学校 50円
　　○65歳以上は100円（証明できるものを提示）など各種減免あり

以西底曳網漁船の大漁時の網揚げ作業（個人提供）

東シナ海の以西底曳網漁船（昭和40年頃）
東シナ海で２艘曳底曳網漁船に乗った徳島県出身の漁師は多い（個人提供）

＜展示構成＞

第１話　鯛を求めて―鳴門堂浦のテグス行商と一本釣り漁師―
第２話　東シナ海にて―九州で「阿波船」の名を轟かせた底曳網船団―
第３話　貝を探して海深くまで―伊島から潜水器をもって遠い海へ―
第４話　黒潮にのって―遠い海でカツオ・マグロを追った漁師たちの物語―
第５話　海の幸を運ぶ―行商に出た美波町のイタダキサン―

＜関連行事＞

（1）企画展記念連続講座

第１回「伊島の潜水器漁業と人生
　　～明治から戦後へ、『１』からのものがたり～」
　　講　師：神野富一氏（甲南女子大学文学部教授）
　　日　時：５月 13 日（日）13：30 ～ 15：00
　　場　所：博物館３階 講座室

第２回「九州・五島行きと以西底曳網漁業」
　　講　師：磯本宏紀（徳島県立博物館学芸員）
　　日　時：５月 20 日（日）13：30 ～ 15：00
　　場　所：博物館３階 講座室

第３回「黒潮に運ばれた道―カツオ一本釣り漁の歴史と民俗―」
　　講　師：川島秀一氏（日本カツオ学会会長・元東北大学教授）
　　日　時：５月 27 日（日）13：30 ～ 15：00
　　場　所：博物館３階 講座室

（2）出羽島歴史散歩
　　講　師：磯本宏紀（徳島県立博物館学芸員）
　　日　時：６月３日（日）10：45 ～ 15：15
　　場　所：牟岐町出羽島

（3）展示解説
　　講　師：磯本宏紀（徳島県立博物館学芸員）
　　日　時：４月 29 日（日・祝）、５月６日（日）、
　　６月 10 日（日）いずれも 14：00 ～ 15：00
　　場　所：博物館１階 企画展示室

イワシまき網漁図絵馬
明治 32 年朝鮮近海へ出漁した漁師たちによって奉納された（佐田神社蔵）

出羽島港に停泊する昭和初期のカツオ釣り漁船
（個人提供）

歴史散歩

「神代文字」？の石碑

吉野川河口からちょうど40kmの地点が阿波市阿波町の岩津です。徳島平野の扇の要のような場所です。ここを境に、気候・文化とも異なり、かつては吉野川上流側を「上郡」、下流側を「下郡」と呼んでいました。現在、南側をJR徳島線と国道192号が、北岸には県道12号がはしり、片引きの斜張橋、3代目岩津橋が500m足らずの両幹線をつないでいます。かつては三好市山城町まで川舟で物資を運んでいました。中間地点の岩津は重要な川湊で、その名残が灯台の役目をはたした常夜灯(1867(慶応3)年建立)です。

常夜灯の下、川面に向かって花崗岩の立派な石碑があります。全面にハングルのようなかたちの文字が並んでいます。阿波市のHPでは「古代文字［鯰の歌碑］」として紹介もされています。これは何ものなのでしょうか。

図１
吉野川の川岸からみた常夜灯と石碑

国学者･歌人の岩雲花香(1792 ～ 1869)が「神代文字」を使って自らの和歌を刻んだものです。岩雲花香は、岩津の八幡神社の神官家に生まれ、17歳から遊学の旅に出て諸国を遍歴するうちに、平田篤胤(1776 ～ 1843)の門下に入り、尊王攘夷論などの強い影響を受け、全国を遊説してまわりました。幕末維新期の稲田家の動向に影響があったともいわれます。この石碑は1862(文久2)年に詠んだ歌を下関で入手した花崗岩の石材に平田の主張する「神代文字」を刻んだものです。

平田篤胤が『神字日文伝』を著したのは1819(文政2)年のことです。全国各地の漢字伝来以前の古代文字伝承を集成しました。佐那河内村大宮八幡宮の神主が1779(安永8)年に主張した「阿波文字」も含まれています。数ある古代文字伝承のなかで、ハングルそっくりの「日文四十七音」に着目し、対馬の卜部家と阿比留家に伝わったこの文字が神代の文字で、応永年間(1394 ～ 1428) に朝鮮に伝わり、ハングルが創られたのだと主張しています。このような主張はもちろん否定されていますが、門下にあった岩雲花香が平田説を信奉して故郷に石碑を建てたのです。

石碑に刻まれた文字は、上段に「すきのおのみやのみまへに　なまつのうたよみてしろいしにゑらしてたてまつれる（杉尾の宮の御前に鯰の歌詠みて白石にゑらし奉れる)」、下段に「なみのまにいててみえなむ　つぬさはふいはつのふちの　そこのなまつは　いわくものはなか(波の間に出でて見えなむつぬさはふ岩津の淵の底の鯰は　岩雲花香)」と読めます。平穏なときは身を隠していても､国家の一大事には活躍しようという意志を､鯰になぞらえて示したという解釈があります。

この石碑の意味は「神代文字」の存否ではなく、それを使った岩雲の行動や歌の内容が、幕末維新期における平田国学や地方知識層の動向を示す遺産のひとつというところにあるのです。

（館長：湯浅利彦）

図２ 「神代文字」で記された石碑

モロッコ南東部の恐竜化石産地

2017年3月上旬、名古屋芸術大学との共同研究の一環で、モロッコ南東部のいくつかの化石産地を訪れました。その一つの化石産地をここで紹介したいと思います。

紹介するのは、モロッコとアルジェリアの国境付近に位置するケムケム（KemKem）と呼ばれる地域の化石産地です（図1）。周辺は見渡す限りの砂漠で、サハラ砂漠の北部にあたります。その一部にある丘陵地帯には、白亜紀中頃（約9500万年前）の湖や河川などの陸上環境で堆積した地層が露出しています（図2）。

地層は、赤褐色の砂岩からなり、河川の流れで砂粒が運ばれた際にできる堆積構造がよく観察できます。この地層全体から、化石が産出する訳ではなく、限られた層から化石が産出します。地元の人たちは、化石を土産物として販売するために化石の発掘を行っています。そのため、彼らは化石が産出するポイントを良く知っており、化石が産出するポイントには、彼らが化石発掘のために掘った穴が多く見られます（図3）。発掘される化石は、陸上や淡水に生息していた生物（恐竜、翼竜、ワニ、カメ、硬鱗魚、サメやエイ類など）の歯や骨、鱗などです（図4）。近年、日本にもモロッコの土産物として恐竜の歯（スピノサウルスやカルカロドントサウルスなど）が持ち込まれていますが、それらはこの地域から産出したものです。

2016年7月、徳島県から2つ目となる恐竜化石が発見されました。この恐竜化石が産出した地層からも、カメ（スッポン類）や硬鱗魚の鱗、淡水生のサメやエイ類の歯の化石が発見されており、モロッコの恐竜化石産地から産出する化石の種類とよく似ています。どちらも湖や河川の周辺に生息していた生物が化石として発見されるためです。そう考えると、徳島県の恐竜化石産地からも、もっと多くの恐竜化石が発見されることが期待できます。　（地学担当：辻野泰之）

図1　モロッコ南東部の恐竜化石産地（KemKem）の位置

図3　化石発掘のために掘られた穴

図2　恐竜化石産地（KemKem）に露出する白亜紀の地層

図4　地層から発見された化石

レファレンスQ&A　ホウレンソウのおひたしが光るって本当ですか？

ホウレンソウのおひたしはホウレンソウをゆでた料理です。これにブラックライト（紫外線）を当てると、赤く光ります（図１）。

紫外線でいろいろなものが光ることは、本誌81号（2010年12月発行）の「レファレンスQ＆A　バナナが光るって本当ですか？」や105号（2016年12月発行）の「レファレンスQ＆A　ダンゴムシはなぜ光るのですか？」で紹介してきました。

今回のホウレンソウの例では、赤く光っていることから反射ではなく、蛍光を発しています。では、なぜ、このように赤く光るのでしょうか？

ホウレンソウなどの緑の植物は、太陽の光のエネルギーを使って、二酸化炭素と水からデンプンを作るという光合成を行っています。この時、太陽光のエネルギーを取り入れるのがクロロフィル（葉緑素）です。このクロロフィルは面白い特徴があり、真夏のような太陽の光が強い場合は、光合成で使いきれずに余ったエネルギーの一部を蛍光として発しています。これはクロロフィル蛍光と呼ばれ、特殊な機器で測定することができます。光合成がなんらかの原因で行えない場合にも、同様に、使われなかったエネルギーを蛍光として発しているようです。ホウレンソウのおひたしの場合は、ゆでることによって、光合成を制御しているところが壊れてしまい、光合成に使われるはずのエネルギーが余ってしまい、蛍光として放出されたと考えられます。ホウレンソウだけでなく、クロロフィルを持っている植物でこの現象は起こります。

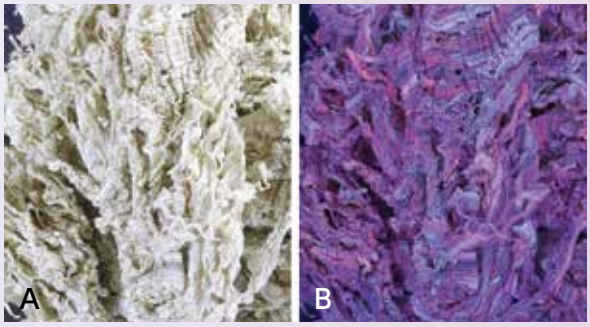

図２　とろろ昆布　A: 通常光で撮影，B: ブラックライトで撮影

さらに、緑の葉を暗い場所にしばらく置いていたり、アルコールに漬けたり、強い酸に入れても紫外線で赤く光ります。とろろ昆布はマコンブなどの昆布のなかまを薄く削ったものですが、削る際に酸で柔らかくして固まりにします。そのせいか、とろろ昆布に紫外線を当てると、とても綺麗に光ります（図２）。

図１では、おひたしに振りかけたゴマが青く光っています。まだまだ、私たちの周りには、紫外線で光るものがありそうです。

（植物担当：小川　誠）

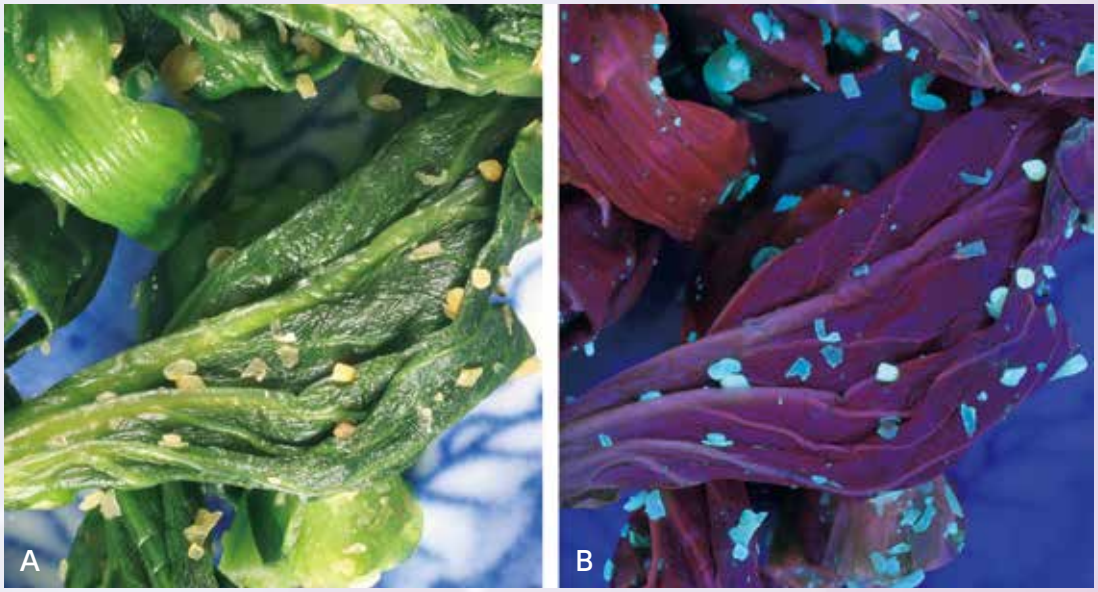

図１　ホウレンソウのおひたし　A: 通常光で撮影，B: ブラックライトで撮影（青く光っているのはゴマ）

4月から6月までの博物館普及行事　あなたも参加してみませんか？

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	申込	対象（定員）	備考
歴史散歩	香川の古墳見学バスツアー★	5月20日（日）	9:00～17:00	要	小学生から一般（40）	貸切バス
野外生きものかんさつ	初めての植物かんさつ（春編）★	4月15日（日）	13:30～15:30	不要	小学生から一般	同日開催「ゼロから始める植物学」
	中級クラス植物観察会５月	5月13日（日）	9:30～17:00	不要	小学生から一般	
	磯の生きものかんさつ★	5月19日（土）	13:30～15:30	要	小学生から一般（70）	現地集合
	初めての植物かんさつ（梅雨期編）★	6月 9日（土）	13:30～15:30	不要	小学生から一般	同日開催「ゼロから始める植物学」
みどりを楽しもう・味わおう	とっても簡単！ 草木染めにチャレンジ★	5月13日（日）	10:00～16:00	要	小学生から一般（20）	
生きものしらべ隊	スンプでかんたん顕微鏡かんさつ★	6月24日（日）	13:00～15:00	要	小学生から一般（40）	
たのしい地学体験教室	電子顕微鏡で化石を見よう！★	4月22日（日）	13:30～15:30	要	小学生から一般（12）	小学校３年生以上
ワクワクむかし体験	はにわクッキーをつくろう★	6月 3日（日）	13:30～16:00	要	小学生から一般（20）	小学校５年生以上
ミュージアムトーク	ゼロから始める植物学 ～植物用語編～	4月15日（日）	10:30～12:00	不要	小学生から一般	同日開催「初めての植物かんさつ」
	ゼロから始める植物学 ～名前の調べ方編～	6月 9日（土）	10:30～12:00	不要	小学生から一般	同日開催「初めての植物かんさつ」
古文書で学ぶ歴史入門	ゼロからの古文書①～③	5月19日（土） 6月16日（土） 7月21日（土）	13:30～15:00	要	小学生から一般（30）	①～③セット 申込みは5/9(水)まで
海部自然・文化セミナー ※海陽町立博物館共催	阿波公方足利氏の守札	6月24日（日）	13:30～15:00	不要	（50）	海南文化館
企画展・特別陳列関連行事	企画展「阿波漁民ものがたり」展示解説	4月29日(日・祝)	14:00～15:00	不要	－	観覧料必要
	企画展「阿波漁民ものがたり」展示解説	5月 6日（日）	14:00～15:00	不要	－	観覧料必要
	企画展記念連続講座 第１回「伊島の潜水器漁業と人生 ～明治から戦後へ、『1』からのものがたり～」	5月13日（日）	13:30～15:00	不要	（50）	
	企画展記念連続講座 第２回「九州・五島行きと以西底曳網漁業」	5月20日（日）	13:30～15:00	不要	（50）	
	企画展記念連続講座 第３回「黒潮に運ばれた道 －カツオ一本釣り漁の歴史と民俗－」	5月27日（日）	13:30～15:00	不要	（50）	
	出羽島歴史散歩	6月 3日（日）	10:45～15:15	要	小学生から一般（20）	現地集合
	企画展「阿波漁民ものがたり」展示解説	6月10日（日）	14:00～15:00	不要	－	観覧料必要
部門展示関連行事	部門展示「阿波の３大絵巻」展示解説	4月15日（日）	13:30～14:00	不要	－	観覧料必要
	部門展示「阿波の３大絵巻」展示解説	4月22日（日）	13:30～14:00	不要	－	観覧料必要
	部門展示「新生代の化石」展示解説	6月17日（日）	14:00～14:30	不要	－	観覧料必要
博物館スペシャル	文化の森こどもの日フェスティバル	5月5日（土・祝）	9:30～16:00	不要	－	祝日無料

◎★印の行事は「チャレンジ自由研究」対応行事です。 ◎小学生が参加する場合は保護者同伴です。 ◎全ての行事が「文化の森教室」に該当します。

普及行事のお申し込みについて

◎1枚の往復はがきで、1行事のみ申し込むことができます。
◎行事日の1カ月前から10日前までに必着でお申し込みください。
◎返信用はがきの住所・氏名を記入してください。
※平成29年6月1日より、はがきの料金が改定されています。
◎希望者が多数の場合は抽選とし、詳細は当選された方にお知らせします。
◎原則として、参加費は無料です。

※お問い合わせは、徳島県立博物館へ（電話088-668-3636）

往復はがきの記入例

〈往信の表面〉	〈返信の裏面〉	〈返信の表面〉	〈往信の裏面〉
62 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館	何も書かないでください	62 〒□□□-□□□□ 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1. 参加希望の行事名 2. 参加希望者全員名（学年・年齢） 3. 住所 4. 電話番号

特典がいっぱい!! 博物館友の会に入会しませんか？

博物館友の会は、さまざまな活動を通して自然や文化に親しむとともに、会員相互の交流をはかっています。2018年度も楽しい行事が予定されています。みなさんも参加してみませんか？

■年会費　・個人会員2,000円　・家族会員3,000円
（10月以降、年会費がそれぞれ半額となります。）

■会員の特典
・年間を通して博物館の常設展、企画展の観覧料が無料になります（一部の企画展を除く）。
・友の会の行事に参加できます。
・友の会の出版物やミュージアムショップの商品を、1割引で購入できます。
・催し物案内、博物館ニュース、会報等が送付されます。

学校教育に博物館を！

徳島県立博物館のもつ資源（もの・情報・人）を学校教育の場で有効に活用していただきたいと考えています。

●遠足
●博物館で授業
●学校へ出向いて授業
●博物館資料の貸し出し

★教材研究のお手伝い
学習内容に関する質問など、何でも気軽におたずねください。動物、植物、地学、考古、歴史、民俗、美術工芸といった専門分野の学芸員がご相談に応じます。まずは、お電話を。

お問い合わせは、徳島県立博物館まで（電話　088-668-3636）

■発行年月日　2018年３月25日
■編集・発行　徳島県立博物館　〒770-8070　徳島市八万町向寺山　TEL088-668-3636　FAX088-668-7197
http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp